

公開シンポジウム 「外交の再考：新たな方法論と挑戦」

「文化外交」、「民間外交」などといった言葉に象徴されるように、21世紀に入り、外交における手法や担い手は多様化の一途を辿っています。その一方で、これまで「外交はどうあるべきか」といった議論は、政府あるいは一部の知識人の間ではなされてきたものの、国民レベルで十分に論じられてきたとは言えません。翻って世界を見れば、米国のソフト・パワー戦略、中国の語学教育を核とした世界的な中国文化の普及等、各国とも自国のブランド・イメージの確立にしのぎを削っています。「戦争の回避」や、「自国の経済成長」といったこれまでの外交の主たる目標が国民の目には色あせたスローガンになりつつある現在、日本は今後の外交にどのような目標を設定し、それをどのように国民レベルで共有していけるのでしょうか。ドイツを中心とした欧州の例に加え、アジア各国（中国、韓国、タイ、シンガポール）の例と比較しながら、外交のあり方を再考します。

日時：2010年8月31日（火） 18:00 20:00

主催：コンラッド・アデナウアー財団、国際交流基金

会場：国際交流基金 【さくら】ホール
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1（東京メトロ丸の内線 四谷三丁目駅）

言語：日本語・英語（同時通訳あり）

参加費：無料

申込方法：参加ご希望の方は、2010年8月27日（金）までに、件名を「外交の再考（10/8/31）参加希望」として、お名前、ご所属、ご連絡先（電話番号、Faxまたはメールアドレス）を明記のうえ、oca@jpf.go.jp または FAX（03-5369-6041）にて、お申し込みください。

パネリスト：

ドイツ - フランク・ウンバッハ（欧州安全保障戦略センター シニア・アソシエイト）

韓国 - 李長熙（韓国外国語大学 教授）

シンガポール - ラン・ペンアール（シンガポール国立大学 東アジア研究所 シニア・リサーチ・フェロー）

中国 - 李明江（南洋理工大学 准教授）

タイ - パヴィン・チャチャヴァルポン（シンガポール東南アジア学研究所 研究主任）

日本 - 岩間陽子（政策研究大学院大学 教授）

日本 - 細谷雄一（慶應義塾大学 准教授）

日本 - 飯山雅史（読売新聞東京本社 調査研究本部 主任研究員）

お問い合わせ：国際交流基金 日本研究・知的交流部 欧州・中東・アフリカチーム 担当：堀江

TEL 03-5369-6071 FAX 03-5369-6041 E-mail: oca@jpf.go.jp

国際交流基金

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1

www.jpf.go.jp